

留学報告書

2014年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生

岡本一秀

2014年夏よりジョージア工科大学 Aerospace Engineering のPh.D.コースに留学中の岡本一秀です。渡米してから5ヶ月が過ぎました。渡米後から現在までについて報告させていただきます。

1. UCLAサマースクール

2014年6月22日、私はアメリカはロサンゼルスに降り立ちました。その時の気持ちは留学生活への期待に胸を高鳴らせていたわけでもなければアメリカで生きていけるのかという不安に押しつぶされそうになっていたわけでもなく、ただただ「気持ち悪い」というものでした。それもこれも飛行機の時間ギリギリまで新宿で「もうしばらく飲めないだろ」と日本酒をガンガン飲ませてくれた友人たちのせいです。せっかくなぜかプレミアムエコノミーにアップグレードされたのに満喫することなくほとんど寝て過ごすだなんて。。ある意味一生の思い出です。

ロサンゼルスでは財団に支援いただいてUCLAのサマースクールに参加し、Communication Studiesの授業をとって英語のブラッシュアップを行いました。UCLAは世界中の大学と提携し、中には単位交換制度がある大学もあり、世界各国の数多くの大学の学生が参加していました。私のとった授業はUCLAの学生:他大学交換留学生:個人で来ている学生 = 1:2:1といった感じでした。

授業は2つあって1つがプレゼンテーションの授業です。いろいろなテーマでプレゼンの練習をするのですが、研究発表と違い、テーマが簡単（先生のデモンストレーションが「オレオの食べ方」）なので純粋にプレゼンの良し悪しに集中できたのでいい練習になりました。パワーポイント原則禁止というルールがあり、アニメーションや絵で逃げることができず、きちんと準備されたプレゼンと準備されていないプレゼンの差が如実に現れ、勉強になりました。もう1つの授業が映画を見てアメリカの文化を学ぶというもの。これだけ聞くとなんだか楽そうな授業です。一番最初の課題も「ハリーポッターと賢者の石」だったので簡単だったのですが、2つ目が“Lincoln”、3つ目が“The Butler”で南北戦争や黒人差別の歴史や現在も続くアメリカの抱える問題を学びました。さらにこの授業でも映画を1本見て自由に何かプレゼンをするという課題があり、しかもなぜか私だけ教授からテーマを“Dolphin Hunting”に指定され、しょうがないので“The Cove”を見て日本側の反論をまとめ、それをプレゼンしたところ質疑応答でトルコ人や中国人の質問にうまく答えられず教授に「お前はこう言いたいんだろ」と助けをもらったりして苦労しました。オーストラリア人が何故かみんなまとめてラスベガスに遊びに行っていたので助かりましたが、いたらどうなっていたことか。

2. ジョージア工科大学

6週間のUCLA生活を経て、8月上旬の交流会に参加した後アトランタに到着しました。アトランタは東京ほど蒸し暑くなく、過ごしやすい気候だと思います。ところがアトランタは治安が悪いことで有名で、キャンパスの周りにも危険なエリアがあります。しかしキャンパスポリ

スがアトランタ市内の警察よりも（治安維持・銃乱射学生制圧という意味で）いい車で常にパトロールしているので（たぶん）安全です。レンガ造りを基調とした建物が整然と立ち並び統一感があり、緑に囲まれた美しいキャンパスです。（下図）



上空から見たGeorgia Techのキャンパス。奥のビル群はAtlantaのMidtown。

今期はMultivariable Control と Orbital Mechanics を履修しています。授業は噂通り重いです。別に日本の授業が軽かった覚えもないですが（冬休みの宿題が冬休みの日数より多かったり、合宿所から駒場へ向かう湘南新宿ラインの中で必死に実験ノート書いたり。）宿題を提出したその日の夕方に次の宿題がネットにアップロードされるなど常に負荷をかけられています。履修してから知ったのですが、Multivariable Control はAerospaceのgradの授業の中で一番きついと多くの学生が口を揃えて言うような授業で、最初の1ヶ月半で1000ページ以上ある Linear Algebraの教科書を終わらせ、中間試験では半数近い学生をドロップアウトへ追い込み、その後カルマンフィルターと最適レギュレータを勉強して最終試験は3時間、と内容が盛りだくさんで、極めつけはQualにこの授業の内容がでるので完全に理解しないとPh.D. candidateになれずにドロップアウトというおまけつきです。理系なのに数学が得意でないのをごまかしごまかしやってきた身としては最初の1ヶ月半は地獄でしたが中間テストをどうにかクリアし、なんとか生き残れそうです。

学生は人種国籍さらにレベルもかなり幅があります。授業の途中でインド訛りや中国訛りで学生が質問をすると耳が変化についていけず聞き取れないことが多々あります。また同じアメリカ人でも出身地によってかなり話す英語が違います。いずれも一人で喋られる分には構わな

いのですが、混ざって一緒に喋られると耳がついていけません。このあたり今後しっかり鍛えないといけないと痛感しています。学生のレベルはデキるやつから英語が喋れなきただのデブあまり数学や理科が得意でない子までいろいろです。私はといえば、英語はできないのに授業の内容はわかっている不思議なやつと思われているようです。このまま「デキるやつ」として最初の学期を終わらせられればいいと思っています。

次学期は *Advanced Flight Dynamics* と *Optimization Methods* の授業を履修する予定です。これで必要な授業が揃うので順調に行けば来年のfallにQualに挑戦ということになりそうです。